



## No.83 時代の変わり目



(AFP BB news から)

世界の秩序が大きく変わろうとしています。  
 第2次世界大戦の時の連合国vs枢軸国の構図は、1945年終戦と同時に、資本主義国vs社会主義国の構図に変わりました。それから約50年経って、社会主義国の筆頭ソ連が崩壊し、さらにそこから約30年。今世界はアメリカが言うような民主主義国vs権威主義国の構図に変わろうとしているのでしょうか。

戦争はあくまで国対国です。国境線を越えない武力衝突は内戦であって、戦争ではありません。プーチンにとって旧ソビエト連邦圏内の武力紛争はグルジアであれ、チェチェンであれ、国内問題だという認識だったのかもしれない。その延長線上にウクライナがあったのではないかと思います。



冷戦時代、ソ連軍の戦車が国境を越えたハンガリー動乱もプラハの春も、ワルシャワ条約機構内の武力制圧に西側諸国は反応しませんでした。いわば共産主義国家同盟内の仲間割れであって、そこは自分達の戦いの最前線ではないし介入する必要もなかった。

今回のウクライナでの武力衝突は、両勢力のフロント(前線)がロシアとウクライナの間にあることを見せつけました。こうなるとまさに国境を跨いだ「戦争」の脅威が現実化してしまったのです。

中国の場合もそうです。

1949年以来台湾にあった蒋介石の国民党政府は、中国全土を支配する前提で、大陸復帰を目指し毛沢東率いる共産党軍と戦っていました。国民党政府自身、建前上中国全土を代表して国連にいましたので、1971年に国連の代表権が北京政府に移ったときも「一つの中国」の原則に異論はなく、それはアメリカ、日本をはじめ、国際社会の共通認識であったわけです。

ところが李登輝総統はこの地域の現実を受け入れ、1996年、中国全土ではなく台湾に住む国民による直接選挙を実施しました。軍隊は共産党軍と対立する国民党軍ではなく、民主的選挙で選ばれた政府の軍隊となりました。この画期的な出来事があったにもかかわらず、国際的には「一つの中国」のドグマはいまだ変更されていません。

しかし今、台湾海峡の間で起こる武力衝突を戦争と見るか内戦とみるか。

私はウクライナと同じようにここに国際戦争の前線が形成されると思います。

しかしながら、強いものが支配するという冷酷な現実があります。

ミャンマーや香港でどんなに民主勢力が頑張っても支配者に沈黙させられる。もしウクライナが1週間も抵抗できなかつたら、クリミアと同様ロシアの支配を認めざるを得なくなり、世界は沈黙したでしょう。冷たいものです。

台湾も前線ができる前に圧倒的な武力によって支配されたら、世界はその現実を受け入れざるを得なくなるでしょう。

それは正義に悖る！民主主義を貫くため、第2次世界大戦のように勝負がつくまで戦うべきだ！と考える人もいます。一方自国の安全を考えれば権威主義者と妥協すべきだと考える人もいます。

日々進展する状況を冷静に分析して、どちらが得かよく考えないと答えは単純ではありません。

どの国も自分達の生き残りをかけてしたたかです。

したたかさの勝負に負けてはいけないと思います。